

医療健康科学部 診療放射線技術科学科 (3つのポリシー)

教育の理念

医療健康科学部は診療放射線技師を養成する学部である。医療健康科学部の教育とは、駒澤大学の建学の理念である仏教の教義並びに曹洞宗立宗の精神に則り、時代に流されることなく、その動きを正確に洞察し、自分の進むべき道を自分の力で適切に判断できる素養と、将来、医用放射線分野の専門家として不可欠な知識・技能・資格を身につけることである。

こうした教育を実現するため、幅広い教養と医用放射線分野の専門知識・技術、さらに、それらを応用する技能、主体的かつ協調的なコミュニケーション能力、多様性を理解し他者と協働する力、情報分析力と問題解決力を身につける「丁寧な教育」「厚みのある教育」を行う。それにより、十分な基礎力・実践力を身につけ、多様な経験を踏まえ主体的に行動できる力を備え、しなやかで折れない心を持ち、持続可能な社会の発展に寄与するとともに豊かな人間性をそなえて医療人としての強い責任感をもち医療技術の発展に寄与する人材の育成を行うことを本学部の教育の理念とする。

卒業認定・学位授与の方針 (ディプロマ・ポリシー)

医療健康科学部は、教育の理念に基づいて定められた以下の4つの能力を身につけ、所定の期間在学し、本学部・学科が定める所定の単位を修めた学生に対して卒業を認定し、学位を授与する。

(DP1) 建学の理念を実践する力〔主体性・多様性・協働性〕

「仏教の教えと禅の精神に基づき、自分をより高める自己形成と学問研究を密接に関連させて行うことができる」という駒澤大学の学生としてのアイデンティティを備えている。

未知の物事にも積極的に挑戦し、実現に向けて粘り強く行動することができる。また、長期的な視点で自らの将来を計画・実行し、キャリアを通じ、社会に貢献する意欲がある。

医療人としての強い責任感と豊かな人間性を有している。

(DP2) 幅広い教養と専門知識〔知識・技能〕

文理を問わない幅広い教養・知識を体系的に身につけている。英語を中心とした外国語の4技能(聞くこと、話すこと、読むこと、書くこと)について、社会人に求められる十分なレベルを修得している。

医用放射線分野における専門知識・技術を身につけている。

(DP3) 課題解決力と表現力〔思考力・判断力・表現力〕

修得した知識・技能やICT(情報通信技術)を活用して、自ら課題を発見、情報収集・分析を行った上で、自由な発想を用いて解決策を見出すことができる。

社会生活に必要な文章読解力・文章作成力・プレゼンテーション能力を身につけ、自らの考えや主張をわかりやすく、かつ効果的に表現することができる。

習得した医用放射線分野における専門知識・技術を、実際に直面する状況・課題に対して臨機応変に活用し、新たな価値を創造することができる。多様な医療情報を収集・分析して適正に判断・思考する力を身につけ、問題を発見し問題解決に繋がるアイデアを出し、自ら行動することができる。

(DP4) 多様な他者を尊重し協働する力〔主体性・多様性・協働性〕

良好な人間関係を築くために必要な傾聴力・対話力・共感力を身につけている。

リーダーシップやフォロワーシップを適切に発揮し、他者と協働して課題解決に取り組むことが

できる。

国内外の多様な文化・価値観を理解・尊重し、グローバル社会に必要とされる国際感覚やともに支え合う共生意識を身につけている。

自らの考えを論理的かつ明確に伝えて、他の医療スタッフと主体的に協働することができる。他の医療スタッフや患者を尊重することができる。

卒業認定・学位授与の方針（ディプロマ・ポリシー）と学習評価の観点のマトリクス表

◎：特に重点を置いている ○：重点を置いている			学習評価の観点							
			知識	技能	思考力	判断力	表現力	主体性	多様性	協働性
卒業認定・学位授与の方針	DP1	建学の理念を実践する力						◎	○	○
	DP2	幅広い教養と専門知識	◎	◎						
	DP3	課題解決力、表現力			◎	◎	◎			
	DP4	多様な他者を尊重し、協働する力						○	◎	◎

※学習評価の観点は、中央教育審議会『新しい時代にふさわしい高大接続の実現に向けた高等学校教育、大学教育、大学入学者選抜の一体的改革について一すべての若者が夢や目標を芽吹かせ、未来に花開かせるために一（答申）』に定義された「学力の三要素」に基づく。

教育課程編成・実施の方針（カリキュラム・ポリシー）

医療健康科学部は、教育の理念に基づいた教育を実践し、学生が「卒業認定・学位授与の方針（ディプロマ・ポリシー）」に掲げた4つの能力を身につけることを目的とし、文理横断的かつ専門的な教育を学士課程のカリキュラムとして構築する。全学共通科目では、多様な教養科目をバランスよく履修することで学びの基礎を築くとともに、専門教育科目では専門性を高める。全学共通科目と専門教育科目の履修により、学生が多様性のある社会で自ら考えて他者を尊重し、協働しながら、生涯にわたって主体的な学びを実践できるように教育課程を編成する。

また、駒澤大学アセスメント・ポリシー（評価の方針）に基づき学生の学修成果の可視化を行い、そこで得られた評価結果を検証し、全学的に教育課程や教育方法の改善を図る。

教育内容、教育方法については下記に定める内容に従う。

1. 教育内容

1) 「宗教教育科目」は、仏教の教えと禅の精神について理解を深め、宗教に対する正しい認識を身につけることを目標とする。

2) 「教養教育科目（人文・社会・自然・ライフデザイン分野）」は、多角的な知識と深い教養を体系的に身につけることによって、公正な判断力を有する豊かな人間性を涵養することを目標とする。

ライフデザイン分野「初年次教育科目」は、高校までの学びから大学での学びへの転換を図り、自律的で自主的な学習態度を身につけることを目標とする。

具体的には高校までの学びから大学の学びへの転換を図り、自立的で自主的な学習態度を身につけることを目的とした科目「新入生セミナー」を初年次に開講する。また、専門分野で4年間学ぶために必要な基礎的な方法を身につけるため、「基礎数学、基礎物理学、基礎化学、情報処理技術」等の基礎科目を開講する。さらに、モチベーションを上げるための、少人数・ゼミ形式で行われる「科学基礎論」を開講する。

ライフデザイン分野「キャリア教育科目」は、社会的・職業的自立、社会・職業への円滑な移行に必要な力を身につけるとともに、長期的な視点で将来設計を行い、社会に貢献することのできる能力の育成を目標とする。

3) 「外国語科目」は、社会人に求められる十分なレベルの外国語運用能力を身につけ、異言語・異文化に対する多角的な理解と教養を深めることを目標とする。

4) 「保健体育科目」は、スポーツを通じて豊かでゆとりある社会生活を実践する能力を獲得し、生涯にわたる健康の増進や体力の向上を図る。

5) 「駒澤教養パスポート（Komazawa Liberal Arts Program）」プログラムでは、「建学の理念科目」「複数言語教育、外国語教育」「数理教育、自然科学教育、情報教育」「多文化理解教育」「日本語リテラシー教育」「教養ゼミ」を配置して文理融合教育を行うことにより、ディプロマ・ポリシーに掲げる課題発見力、課題解決力を身につけ、多角的な視点と豊かな技術力を有する人材を育成する。

6) 専門教育科目は、各学部・学科（専攻）における専門分野の知識・研究方法を体系的に身につけるとともに、ディプロマ・ポリシーに掲げる問題解決力、表現力、多様な他者と協働する力などを総合的に育成することを目標とする。初年次には基礎・基本となる導入教育科目を、2年次以降には専門分野の知識を体系的に理解する講義科目、自らの知的好奇心を追求しこれまでに修得した知識を実践する演習科目、修得した知識を実践する実験・実習科目を配置する。医療健康科学部では診療放射線技師資格取得のため、診療放射線技師学校養成所指定規則に基づいて基礎分野、専門基礎

分野、専門分野の科目を専門科目として配置する。多様化する診療放射線科学分野の学問領域に対応するため、3コース制を採用し、より各コースの専門性に特化した専門科目を体系的に配置し、先進性の高い教育内容を実現する。講義、演習、実験、実習、総合研究と多様な授業形態をとおして、基礎学力、応用力、問題解決能力を備えた医療人を育成する。専門科目として「医療宗教学」、「医療経済学」、「臨床医療人間学基礎実習」「医療安全管理学」を配置し、幅広い視野をもった医療人を育成する。また、卒業年次には、学びの集大成として総合研究および論文の作成・発表、また、診療放射線技師国家試験の受験などを行う。

2. 教育方法

- 1) 「仏教と人間」は、共通のシラバスに基づいて講義が行われ、その中に「坐禅」の実習を含めることで、禅の精神に触れる機会を設ける。
- 2) 演習・実習科目、及び新入生セミナーにおいては、アクティブ・ラーニングを取り入れた教育を行う。大人数になりやすい講義科目においても、可能な限りアクティブ・ラーニングを取り入れた授業を行う。
- 3) 実験や演習科目では、原則として少人数制の下、担当教員による手厚い指導を行う。
- 4) e ラーニングシステム等の Web システムを活用することで、学生が授業時間以外に主体的に学修する時間を増やし、担当教員と学生の密接なコミュニケーションを促し、学んだ知識の理解を深め、単位の実質化を図る。
- 5) 基礎的な必修科目や複数開講されている同一名称の科目（演習を除く）では、ルーブリックなどを用いて成績評価の観点と成績評価基準を明確にする。教員と学生との間で評価内容・評価方法の認識を共有し、科目の成績評価基準の標準化を行うことで、成績評価の公平性、客観性、厳格性を高める。
- 6) アセスメント・ポリシーに基づいて、学生調査・アンケートや学修成果を測定するアセスメント・テストの結果に基づく客観的な評価指標によって全学的な検証を行い、検証結果を教育内容や教育方法の改善へ積極的に活用し、学生へのフィードバックを行う。

3. 卒業認定・学位授与の方針（ディプロマ・ポリシー）と教育課程の編成・実施のマトリクス表

◎：特に重点を置いている。 ○：重点を置いている。

分野区分	DP1	DP2	DP3	DP4	各科目群のねらい	
全学共通科目	宗教教育科目 ・仏教と人間	◎			○	仏教の教えと禅の精神について理解を深め、宗教に対する正しい認識を身につける。
	教養教育科目（人文・社会・自然・ライフデザイン分野）		◎	○	○	多角的な知識と深い教養を体系的に身につけることによって、公正な判断力を有する豊かな人間性を涵養する。
	初年次教育科目 ・新入生セミナー			◎		高校までの学びから大学での学びへの転換を図り、自律的で自主的な学習態度を身につける。
	キャリア教育科目 ・科学基礎論	○			◎	現代医療の状況とその論理を種々の専門分野に則して紹介しながら、少人数による体験と問題提起と討論を通して医療人としての姿勢を培う一助とする。
	外国語科目 ・英語 I Aa、英語 I Ab、 ・英語 I Ba、英語 I Bb、		◎		○	社会人に求められる十分なレベルの外国語運用能力を身につけ、異言語・異文化に対する多角的な理解と教養を深める
	保健体育科目 ・健康・スポーツ実習 ・保健理論				○	スポーツを通じて豊かでゆとりある社会生活を実践する能力を獲得し、生涯にわたる健康の増進や体力の向上を図る。
	リメディアル教育科目 ・数学序論A、数学序論B ・物理学序論A、物理学序論B ・化学序論					入学直後の学生を対象とする援業であり、高校の物理・化学・数学から大学の物理・化学・数学へスムーズに学習できるためのリメディアル科目である。今後の学習のための物理面での基礎力を高めることを目的としている
	導入教育科目 ・基礎数学A、基礎数学B ・初等物理学、基礎化学		◎	○		専門分野で4年間学ぶために必要な基礎的な方法を身につける。
専門教育科目	講義科目		◎			専門分野の知識を体系的に身につける。
	演習科目 ・総合演習 I,II ・放射線学総合演習		◎			専門分野の知識の習得レベルを基礎分野から専門分野に至るまで段階的に確認することにより、診療放射線技師国家試験合格に必要な知識を確実に習得する。
	実験科目 ・基礎科学実験 ・診療工学実験 ・放射線治療技術学実験 ・放射線管理学実験 ・画像工学実験		◎	◎	○	実験装置や器具の使い方を身につけ、実際にそれらを使用した研究を行う。また、実験結果をレポートにまとめることにより、文章力を身につけ、自らの考えを論理的かつ明確に伝える能力を身につける。

臨床医療人間学基礎実習		◎	◎	◎	医療人としての心構え、および診療放射線技師としての患者接遇法並びにそれらの留意点を中心に、これらの業務が医療施設ではどのように実施されているか、医師および他医療技術職種との連携、業務分担について学ぶ。
基礎実習 ・核医学検査技術学基礎実習 ・画像検査技術学基礎実習		◎	◎	○	臨床実習前に、検査部位毎に体験実習を行い、実際の臨床の場で応用できる基礎能力を養う。また検査に伴う診断用撮影機器及び周辺機器の適正な使用方法を身に付け、最適な画像を得るための諸条件を工夫する能力をつける。
臨床実習 ・画像検査技術学実習 ・核医学検査技術学実習 ・放射線治療技術学実習		○	◎	◎	診療放射線技師国家試験受験資格のために必須とされる臨床実習であり、放射線設備および指導者の充実した医療機関において実施される。専門分野の講義・実験等で身につけた知識を基に、体験学習等を行う。
卒業論文・卒業研究・資格試験など ・医療放射線科学総合研究 ・医療画像科学総合研究 ・診療放射線技師国家試験	○		◎	○	4年次においてこれまでの学習成果を基に、医療分野における学生各自の興味のあるテーマについて、指導教員の助言を受けながら研究を行う。研究成果は論文に纏めると共に発表を行う。また、国家資格を得るために診療放射線技師国家試験を受験する。

入学者受け入れの方針（アドミッション・ポリシー）

医療健康科学部は、駒澤大学入学者受け入れの方針（アドミッション・ポリシー）に則り、以下のとおり入学者選抜を行う。

1. 医療健康科学部の求める学生像

(AP1) 駒澤大学建学の理念への理解〔主体性、多様性、協働性〕

本学は仏教の教えと禅の精神を建学の理念とする大学であることを理解し、医療健康科学部で学んだ知識や技能を社会で実践する意欲と目的意識を持つ。

(AP2) 入学前に修得することが望ましい教養〔知識、技能〕

高等学校の教育課程を幅広く修得し、本学部での学修に必要な基礎学力（特に、数学、物理、化学）を有している。

(AP3) 課題解決へのアプローチ〔思考力、判断力、表現力〕

地域社会、国際社会、産業界の出来事について問題意識を持ち、様々な情報に基づき考察を行い、その結果を他者にわかりやすく説明することができる。

(AP4) 他者と協働する力〔主体性、多様性、協働性〕

国内外の多様な文化・価値観の違いを認識し、他者を尊重し、主体的に協働する意欲を持つ。

2. 入学前に修得することが望ましい教科、取り組むべき活動や学習習慣

1) 入学前に修得することが望ましい教科

- ・ 高等学校における「数学」「理科」の知識

数学：数学Ⅰ、数学Ⅱ、数学A、数学Bをすべて修得しているのが望ましい。

理科：物理学（物理基礎、物理）、化学（化学基礎、化学）、生物学（生物基礎、生物）のうち少なくとも2科目を修得しているのが望ましい。

2) 取り組むべき活動や学習習慣

- ・ 物事を論理的に考察する力や、自分の考えを的確にわかりやすく表現し、他者とコミュニケーションをとる能力の向上に努める。
- ・ 多様な文化・多様な価値観があることを踏まえ、他者と協調性を持つことに努める。

3. 求める学生像と入学者選抜方法のマトリクス表

◎：特に重点を置いている。○：重点を置いている。

選抜区分		選抜方法	AP1	AP2	AP3	AP4	選抜制度の目的および特徴
一般選抜	T方式	筆記試験		◎	○		大学での学修に必要な基礎学力を有している、特に知識に優れた学生の受け入れを目的に教科の筆記試験にて判断する。
	S方式	筆記試験		◎	○		
大学入学共通テスト利用選抜	前期	筆記試験		◎	○		大学での学修に必要な基礎学力を有している、特に知識に優れた学生の受け入れを目的に教科の筆記試験にて判断する。
	中期	筆記試験		◎	○		
総合型選抜	自己推薦選抜(総合評価型)	出願書類	○	○		○	大学での学修に必要な基礎学力を有している、特に知識に優れた学生の受け入れを目的に教科の筆記試験にて判断する。
		筆記試験		◎			
		面接・口頭試問	◎	○	◎	◎	
学校推薦型選抜	スポーツ推薦選抜	出願書類	○	○		○	本学の教育の理念を理解し、スポーツ競技で高い能力を持ち、スポーツにおいて本学に貢献することのできる学生の受け入れを目的に、出願書類、事前課題および面接・口頭試問にて判断する。
		事前課題	○	◎	◎	◎	
		面接・口頭試問	◎	○	◎	◎	
	指定校推薦選抜	出願書類	○	○		○	本学の教育の理念を理解し、本学で学ぶ意欲が高く、学力・人物とも良好で他の学生の模範となる学生の受け入れを目的に、出願書類および面接・口頭試問にて判断する。
		事前課題		◎	○		
		面接・口頭試問	◎	○	◎	◎	
	附属高等学校等推薦選抜	出願書類	○	○		○	本学の教育の理念を特に理解し、本学で学ぶ意欲が高く、学力・人物とも良好な学生の受け入れを目的に、出願書類および面接・口頭試問にて判断する。
		事前課題		◎	○		
	その他選抜	社会人特別選抜	出願書類	○	○		○
小論文等			○	◎	◎	◎	
数学				○			
面接・口頭試問			◎	○	◎	◎	
国際型選抜		出願書類	○	○		○	本学の教育の理念を理解し、国際的感覚を身につけた、個性ある勉学意欲旺盛な学生の受け入れを目的に、出願書類、事前課題および面接・口頭試問にて判断する。
		事前課題		◎	○		
		面接・口頭試問	◎	○	◎	◎	
外国人留学生選抜		出願書類	○	○		○	本学の教育の理念を理解し、国籍・文化的背景の異なる留学生の受け入れを目的に、出願書類、「日本留学生試験」結果、
		日本留学試験(成績)		◎			

		小論文等		◎			小論文等、および面接・口頭試問にて判断する。
		英語		◎			
		面接・口頭試問	◎	○	◎	◎	
	編入学者選抜	出願書類	○	○		○	本学の教育の理念を理解し、大学入学後の進路変更や学び直しを希望する学生、および多様な経験を有する学生を受け入れることを目的に、出願書類、小論文等、英語試験および面接・口頭試問にて判断する。
		小論文等		◎			
		英語		○			
		面接・口頭試問	◎	○	◎	◎	